

# 目 次

●人間と環境（ライフサイクルとメンタルヘルス） .....	1
●人間と環境（斜面市街地のくらし） .....	2
●人間と環境（環境認知_微生物環境_放射線環境） .....	3
●人間と環境（ハンディキャップ） .....	4

2010年度 前期	曜日・校時 水4 ～	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100567007001 授業科目(英語名)	●人間と環境(ライフサイクルとメンタルヘルス) Human and Environment		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 102	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人間科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス / 研究室 / TEL / オフィスアワー 今村 明 / f1042@cc.nagasaki-u.ac.jp / 大学病院精神神経科医局 / 819-7293 / 火曜日 午前8:00-午前9:00			
担当教員(オムニバス科目等)	今村 明, 中根 秀之		
<b>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</b> <b>ねらい:</b> 近年では、自殺やいじめといったメンタルヘルスに関連した様々な問題が注目されている。このストレス社会をより豊かに生き抜いていくために、また、家族や知人を援助していくために、ライフサイクルのそれぞれにステージにおけるメンタルヘルスについて理解を深める。 <b>授業方法(学習指導法):</b> 参考資料やプレゼンテーション、さらに必要に応じてDVD・ビデオを用いて行う。 <b>到達目標:</b> 生命の誕生、胎児期から老年期、そして死に至るまでのライフサイクルを理解できる。メンタルヘルス、ストレスコーピングについて自ら総合的に考えることができる。 精神障害や精神保健、偏見や差別について理解する。 自分や家族、周囲のメンタルヘルスの援助ができる。			
<b>授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</b> 本科目では、生命の誕生、胎児期から老年期、そして死に至るまでのライフサイクルを概観し、それぞれのライフステージに関連したテーマに焦点を当て、講義を行う。 それらのテーマについて、自分がどのように感じ、考えるかという作業が重要であるとする。メンタルヘルス、ストレスコーピングについて総合的に理解を深める。 第1回 4/14 「オリエンテーション」(担当:今村) 講義全体の概観と説明 第2回 4/21 「老いと向き合う」(担当:中根) 高齢化社会と認知症について 第3回 4/28 「生命誕生の神秘」(担当:今村) 命の誕生についての生物学的理解 第4回 5/12 「映画で学ぶメンタルヘルス」(担当:小澤) 映画を通じて心の世界を学ぶ 第5回 5/19 「恋愛・結婚・離婚 男性と女性」(担当:今村) 恋愛や男女の違いを科学的に考える 第6回 5/26 「ジェンダーとは?」(担当:中根) 性同一性障害(GID)について 第7回 6/2 「ライフサイクルとメンタルヘルス(1) 胎児・乳児・児童期」(担当:黒滝) 人生の早期の変化と問題点 第8回 6/9 「ライフサイクルとメンタルヘルス(2) 思春期・青年期」(担当:黒滝) 思春期・青年期における変化と問題点 第9回 6/16 「生と死を見つめる」(担当:中根) 自殺の問題、癌の末期のケアについて 第10回 6/23 「ライフサイクルとメンタルヘルス(3) 壮年期・老年期」(担当:黒滝) 高齢者の問題点 第11回 6/30 「遺伝子と精神疾患」(担当:黒滝) 遺伝子と精神疾患(担当:黒滝) 遺伝子の変化と精神疾患について 第12回 7/7 「映画で学ぶメンタルヘルス(2)」(担当:小澤) 映画を通じて心の世界を学ぶ 第13回 7/14 「統合失調症・気分障害・神経症性障害」(担当:今村) 精神疾患についての理解 第14回 7/21 「発達障害・パーソナリティ障害・摂食障害」(担当:今村) 精神疾患についての理解 第15回 8/4 「現代の社会病理」(担当:今村) 現代社会の問題点についてのまとめ			
キーワード	メンタルヘルス、精神保健、精神障害、ストレス		
教科書・教材・参考書	参考資料やプレゼンテーションのプリントを配布。 DVD、ビデオも使用する。		
成績評価の方法・基準等	レポートより授業中の課題に対する積極的な取り組み状況や与えられたテーマについて、理解を裏付ける討議ができていくかを判断基準とする。		
受講要件(履修条件)	履修上の注意:原則として全回出席をしなければ単位は成立しない。ただし、やむを得ず(正当な理由で)欠席する場合は、個別指導等を行う。なお、講義の効率性を考慮し、受講者制限を行う。(100名)		
本科目の位置づけ 学習・教育目標	本科目では、生命の誕生、胎児期から老年期、そして死に至るまでのライフサイクルを概観し、それぞれのライフステージに関連したテーマに焦点を当て、講義を行う。それらのテーマについて、自分がどのように感じ、考えるかという作業が重要であるとする。メンタルヘルス、ストレスコーピングについて総合的に理解を深める。		
備考(準備学習等)	日常生活の中からWebやTVなどを用いてメンタルヘルスや精神保健に関する情報を取り入れる工夫をすること。		

2010年度 前期	曜日・校時 金3 ～	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100567007002 授業科目(英語名)	●人間と環境(斜面市街地のくらし) Human and Environment		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 430	
対象学生(クラス等)		科目分類 人間科学科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス / 研究室 / TEL / オフィスアワー 松坂 誠應 / matsu_report@hotmail.com / 松坂: 医学部保健学科 3F 石松: 工学部 5F 杉山: 環境科学部 3F / 松坂: 819-7961 石松: 819-2508 杉山: 819-2752 / 松坂: 金曜午前 石松: 金曜午前 杉山: : 金曜午前			
担当教員(オムニバス科目等)		松坂 誠應, 石松 隆和, 杉山 和一	
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 人間の生活、特に障害のある人や高齢者の生活は様々な環境の影響を受けるが、その環境要因を知り、誰もが住みやすい生活環境を創造していくための基礎的な知識と思考力を高める。 授業方法(学習指導法): 講義だけでなく、斜面市街地やそこで生活する人々を理解する目的で、斜面地に住む障害のある人々との交流や斜面に関するボランティア活動や現地見学などの課外活動を行う。また、講義で障害のある人や高齢者からの講話を聞く。 課外活動は複数回計画するが、参加できなかった場合は課題レポート提出で代える。 到達目標: 障害のある人や高齢者の生活に影響する環境要因とそれに対する対応策を理解し、説明できる。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 人間は様々な環境要因の影響を受けるが、障害のある者や高齢者は生活環境によって身体的・心理的・社会的な影響を受けやすい。特に、市街地の大半が斜面地である長崎市では障害のある者・高齢者の身体機能の低下や社会参加の制限など多くの問題が指摘されている。 講義では、生活環境が障害のある者に与える影響を身体的・心理的・社会的側面から解説するだけでなく、都市計画など環境整備、福祉機器の利用による生活環境への対応など環境科学やリハビリテーション工学の面からも解説する。 第1回 (4/16) オリエンテーション(松坂・杉山・石松) および障害者等の生活の概要(松坂) 斜面市街地に生活する高齢者を記録したビデオから斜面市街地のくらしの概要を知り、3名の教員の講義計画について説明する。課外活動(ボランティア、現地見学)の説明も行う。障害のある者や高齢者の生活の概要についても講義する。(松坂) 第2回 (4/23): 石松 障害のある人の講話 第3回 (4/30): 休講 ※週末に行う現地見学の代休 第4回 (5/07): 松坂 障害のある者や高齢者の生活と環境の影響 第5回 (5/14): 松坂 障害のある人への生活支援の考え方と実際 第6回 (5/21): 休講 ※週末に行うボランティア活動の代休 第7回 (5/28): 松坂 ノーマライゼーションの考え方 第8回 (6/04): 杉山 斜面市街地の現状と対策(1) 第9回 (6/11): 杉山 斜面市街地の現状と対策(2) 第10回 (6/18): 杉山 斜面市街地の分析・評価(1) 第11回 (6/25): 杉山 斜面市街地の分析・評価(2) 第12回 (7/02): 石松 福祉機器作成・提供の考え方 第13回 (7/09): 石松 福祉機器使用の実際(1) 第14回 (7/16): 石松 福祉機器使用の実際(2) 第15回 (7/23): 松坂・杉山・石松 まとめ: 学生と教官のディスカッション(障害の違いと環境整備)			
キーワード	人間、環境、健康、障害、生活、QOL		
教科書・教材・参考書	教科書は用いず、授業計画に沿ったプリント資料を配布する。		
成績評価の方法・基準等	毎回の講義に関するレポート(40%)、課題レポート(第15回時に示す)(40%)および課外活動(ボランティア、現地見学)への参加(20%)で判定する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ 学習・教育目標			
備考(準備学習等)	松坂以外の教員のメール 石松: ishi@nagasaki-u.ac.jp 杉山: sugiyama@nagasaki-u.ac.jp		

2010年度 後期	曜日・校時 火2 ～	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100567007003 授業科目(英語名)	●人間と環境(環境認知_微生物環境_放射線環境) Human and Environment		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 429	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人間科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス / 研究室 / TEL / オフィスアワー 松田 尚樹 / nuric@nagasaki-u.ac.jp / 先導生命科学研究支援センター アイソトープ実験施設 / 819-7163 / 火曜日 9:00～1000			
担当教員(オムニバス科目等)	松田 尚樹, 浦田 芳重, 竹下 哲史		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 生物は誕生から死まで様々な刺激を環境から受け、対応しながら生きている。また日常の生活において、微生物及び放射線・紫外線は我々が避けることのできない環境中の因子である。本授業では、ヒトが環境を認知する仕組みについて総論的に理解した後、微生物環境及び放射線・紫外線環境と人間生活の関係について知識を深める。 授業方法(学習指導法): 3名の教員が分担し、ビデオ及びPCを用いて講義を行う。 到達目標: (1) 環境認知: ヒトの成長に沿って作られていく体と心の仕組みを映像的に理解し、ヒトがどのようにして環境からの情報を処理し対処しているのかを知ることにより、人間と環境の関係について論理的に考察できるようにする。 (2) 微生物環境: 人間や環境と、微生物との関わりを学ぶ。さらに、微生物は人間にとって有害であるということが強調されがちであるが、大部分の微生物は動物や植物の生活環境を支え、人間にとっても必要不可欠な協力者になっていることを理解する。 (3) 放射線環境: 放射線と紫外線の基礎、人体に及ぼす影響、およびそ			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) ヒトによる環境の認知についてまず基礎を概説し、次いで微生物及び放射線・紫外線とヒトや環境とのかかわり、健康への影響、及びその対処等について各論を述べる。 1～ 5回 環境認知 6～10回 微生物環境 11～15回 放射線・紫外線環境 16回 定期試験(2011/2/8) 第1回 いのちの誕生 (10/5 浦田) 第2回 はじめての冒険 (10/12 浦田) 第3回 悩める10代 (10/19 浦田) 第4回 脳の神秘 (10/26 浦田) 第5回 老いを生きる (11/2 浦田) 第6回 微生物とは (11/9 竹下) 第7回 暮らしと微生物 (11/16 竹下) 第8回 環境における微生物の役割 (11/30 竹下) 第9回 環境浄化と微生物 (12/7 竹下) 第10回 人間と微生物 (12/14 竹下) 第11回 放射線の基礎 (12/21 松田) 第12回 紫外線の基礎 (1/11 松田) 第13回 放射線の影響 (1/18 松田) 第14回 紫外線の影響 (1/25 松田) 第15回 放射線と紫外線の防護 (2/1 松田)			
キーワード	脳、老化、微生物、放射線、紫外線		
教科書・教材・参考書	教科書は用いず、授業計画に沿ったプリント資料を配布する。参考文献は適宜紹介する。		
成績評価の方法・基準等	定期試験 90%、授業中の課題に対する積極的な取り組み状況 10%		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ 学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 後期	曜日・校時 火4 ～	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100567007004 授業科目(英語名)	●人間と環境 (ハンディキャップ) Human and Environment		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 102	
対象学生(クラス等) 1・2年次	科目分類 人間科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス / 研究室 / TEL / オフィスアワー 長尾 哲男 / naga o@nagasaki-u. ac. jp / 保健学科5F / 819-7994 / 火1100-1200			
担当教員(オムニバス科目等)	長尾 哲男, 村田 潤		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標			
ねらい: 疾病・事故・加齢に伴う運動機能の障害やそれ等からおこる生活障害等により生じるハンディキャップについて学ぶ。 また、リハビリテーションの観点から身体機能の障害改善のための主体的活動への働きかけや身体の高多様な障害から生活障害を惹起させないための多面的な検討を紹介し、障がい者の生活権保障から社会生活におけるノーマライゼーションを模索することの理解を深める。			
授業方法(学習指導法): 講義・視聴覚資料の視聴・相互の意見交換			
到達目標: 傷害された機能の再獲得のためのリハビリテーションの概要(特に作業療法視点から)を理解することにより、受動的な訓練と異なった主体的な活動による機能回復や開発を目指す支援方法の理解を深める。また、機能障害を代替する方法の変更・環境調整や機器の利用等により機能の障害を生活の障害とさせない支援について理解できるようにする。			
障害者・高齢者等の生活弱者の生活権の存在を理解する。それへの認識を深めて自律的生活遂行における困難な部分において支援を受ける権利の保障についてからノーマライゼーションを模索する視点を身につける			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)			
リハビリテーションの定義の変遷とリハビリテーションアプローチの変遷から障害に対する認識の時代的変化について講義し、身体機能障害へのアプローチの理念と手法について講義する。 特に運動機能の障害理解や改善のための治療理論と作業療法における活動利用の実際等について講義する。 多様な生活文化と生活技法について講義し、支援の理念や支援方法による功罪について講義する。 後半は四肢の切断・高位脊髄損傷・認知症等の疾病や移動手段・生活環境等の福祉用具、障がい者の性等のテーマについて受講生と協議してテーマ1～3程度を絞りそれぞれについて相互に意見交換し、各自が自分の意見としてレポートにまとめて報告することにより理解を深める。 前半は村田、後半は長尾が担当する。			
第1回 リハビリテーションの概論			
第2回 身体機能制御の仕組み			
第3回 身体機能と環境適応			
第4回 身体機能障害の理解と対応			
第5回 高次脳機能障害の理解と対応			
第6回 心身機能の加齢に伴う変化について			
第7回 高齢者の健康支援			
第8回 「機能障害と生活障害の関係」と「支援の理念と環境改善」			
第9回 生活用具と彼我の文化の違い 一食文化の歴史的違いから食事用具の違いと障害者用食事用具一			
第10回 テーマ1の資料提示と説明			
第11回 " " についての検討と意見交換			
第12回 テーマ2の資料提示と説明			
第13回 " " についての検討と意見交換			
第14回 テーマ3の資料提示と説明			
第15回 " " についての検討と意見交換 : まとめ			
キーワード	リハビリテーション、ノーマライゼーション、作業療法、障がい者の生活		
教科書・教材・参考書	参考書: 上田敏リハビリテーションを考える(障害者問題双書)福祉用具アセスメントマニュアル(中央法規) 他適宜配布・紹介する選択したテーマに応じた視聴覚資料を利用する		
成績評価の方法・基準等	原則として毎回終わりにその日の学びの深まりについてレポート(100%)を記入し提出する。出席し小グループでの議論に参加し発言することを通じて理解を深めていくため出席は必須である。レポートはそれをもとに自らの理解の変化をまとめて作成する。配点は各回100点とし15回合計を15で除するものとする。		
受講要件(履修条件)	原則として全回出席をしなければ単位は成立しない。ただし、やむを得ず(正当な理由で)欠席する場合は、個別に学習の指導を行う。		
本科目の位置づけ 学習・教育目標			
備考(準備学習等)			